

2019年度

事業計画

自 2019年 4月 1日

至 2020年 3月31日

公益財団法人 正力厚生会

【活動方針】

◆がん患者支援事業のポイント

正力厚生会のがん患者助成事業は、①「がん患者団体への助成」②「医療機関への助成」③「読響ハートフルコンサート」を3本柱として進めている。

「がん患者団体への助成」では、患者団体の事業計画の内容を最も重視しつつ、資金に乏しい団体や、地方に活動拠点を置く患者会にも配慮して助成先を決定する。

「医療機関への助成」は、図書館にがん情報の冊子を寄贈する国立がん研究センターの「がん情報ギフト」事業の発展強化プロジェクトとして、地域の拠点病院や図書館と共催するがん情報普及イベントなどに助成する。併せて、2017年度まで助成した「在宅療養支援プロジェクト」の情報更新事業にも助成を行う。

「読響ハートフルコンサート」は、地域バランスなどを踏まえたうえで、2019年度も全国の8医療機関で開催する。

<患者会活動への支援>

患者団体等への助成事業（継続）

全国のがん患者会、サポートグループなどで、資金不足からイベントやプロジェクト、研究などの実施が難しい団体を公募し、活動資金を助成する事業。2007年度から始まり、2019年度は13回目となる。2019年度助成に応募した団体は43団体（2018年度49団体）。1月28日の専門委員会で選考し、27団体を助成対象に内定した（同33団体）。事業の内容に応じて1団体に上限50万円を助成する。

2007年度～2019年度の助成実績は延べ300団体となる見込み。

<医療機関への助成>

これまでは、がん診療のデータベース構築や在宅療養支援のフォーラム開催などの活動に助成を行ってきた。2019年度からは、正しいがん情報を地域にきめ細かく普及することを目標に、国立がん研究センターの「がん情報ギフト」事業の発展強化を目指す新プロジェクトなど、2つの分野に助成を行う。

「がん情報ギフト」とは、国立がん研究センターの「がん対策情報センター」（若尾文彦センター長）が、一般からの寄付を基に全国の図書館へがん情報の

冊子セットを贈る取り組み。この冊子セットの寄贈拡大とさらなる活用に向けて、同センターへ500万円を助成する。助成を基に同センターは、各地域の拠点病院や図書館と共に、正しいがん情報普及のための小規模フォーラムや勉強会などを共催する。地域の患者団体、一般患者らの参加を呼び込める態勢づくりにも留意し、会場周辺の各図書館に冊子セットを送って啓発に努める。

初年度はモデル活動地域を選んで試行し、最も効果的なイベント形態などを探る。事業の枠組みが定着するまで数年間、継続的に支援する。

併せて、2012年度から2017年度にかけて助成した「がんの在宅療養支援プロジェクト」にも、100万円を助成する。同プロジェクトが取り組んだ一般市民向けフォーラムや専門職向け研修会の様子は、動画などでネットに掲載され、今なお閲覧者が増える傾向がある。少ない費用で研修会等を開く枠組みもできており、最小限の支援を継続して、サイトの情報更新などを含め、助成の成果が途絶えることのないように図る。

<QOL(クオリティー・オブ・ライフ)向上への助成>

読響ハートフルコンサート（継続）

がん患者や家族たちの心を癒すには音楽が有効と考え、2007年度から公益財団法人読売日本交響楽団のメンバーを病院に派遣して、待合室ロビーなどで弦楽四重奏を披露している。

2019年度の会場を公募した結果、全国15医療機関から応募があった。地域バランスなどを考慮し、1月28日の専門委員会で下記8会場を内定した。

なお、読売日本交響楽団の演奏料が値上げされたため、近接した2か所を一度に回る演奏日程を組み入れて移動費縮減に努め、8か所開催を維持した。昨年始めた歌手の参加は、今年も東京都内の会場で実施する。

開催は2019年度末で累計88か所となる見込み。また、今後、諸般の事情で日程が変更となる場合がある。

① 京都桂病院	(2019年6月20日)	京都市
② 大阪府済生会中津病院	(同 8月27日)	大阪市
③ 広島大学病院	(同 8月28日)	広島市
④ 金沢医科大学病院	(同 9月12日)	石川県内灘町
⑤ 福井県立病院	(同 9月13日)	福井市
⑥ 長野赤十字病院	(同 10月4日)	長野市
⑦ 東京都立駒込病院	(同 11月8日)	東京都文京区
⑧ 唐津赤十字病院	(同 12月2日)	佐賀県唐津市

以上